

幻のコーヒ一生産地を訪ねて

2008年2月7日 JICA草の根技術協力:Vol.1

スリランカフェアトレードプロジェクトが幻のコーヒ一生産地をたびたび訪ねています。現地駐在員も置き、活動が本格化してきました。2007年11月に訪れた「幻のコーヒ一生産地」について、簡単なご報告をします。

フェアトレードの本事業はJICAの草の根技術協力事業として採択され、委託された事業です。

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/shien/detail/sri_05.html



●「幻のコーヒ一生産地」 山岳農民 コットマレーとは、どんなところか? ●

スリランカの中心に位置する最後のシンハラ王朝キャンディー。その世界文化遺産でもある古都キャンディーから3時間ほど車で細い道を上り、標高1000M以上の山岳地帯に位置します。村人の年収は一世帯平均約2万ルピー(=約21,000円)であり、現金収入の少ない貧困地域です。

●村の名前は「ラヴァナゴダ村」●



この村は人口580人164世帯です。コーヒーの栽培適地として考えられ、高品質で希少価値の高いコーヒ一生産地として期待されています。現地政府機関である農業省農業輸出局も着目し、これまで農業指導者たちは、農業改良普及の方法としてコーヒ一生産、とりわけアラビカ種の普及に力を入れてきました。

●スリランカは 過去140年前まで 世界で有数のコーヒー 一大生産地 ●

現在は世界でインドに次ぐ生産を誇り、紅茶で有名なセイロン紅茶になったのは、140年前です。その前はコーヒーの一大産地で世界への貿易品でした。最も早いコーヒ一生産地のアラビア半島イエメンのモカコーヒーがその源流になります。



●スリランカフェアトレードプロジェクトの仕事●

スリランカでの私たちの仕事は、以前のコーヒ一生産地だったアラビカコーヒ一生産を起こすことを目的としています。これまで、スリランカ農業輸出局の指導はあっても、コーヒー農家として、経営は成り立たない状況です。私たちが訪問した時は、村人はコーヒ一生産意欲を欠いていました。



●プロジェクトの目標●



村人の主な問題点は、コーヒーの品質にとって当面する最も重要な栽培、収穫技術や乾燥・調整法にあり、この問題を解決して農民の生産意欲を向上させることです。

コーヒー豆の選別と乾燥・調整に必要な資機材が整い、アラビカ種の生産環境と体制が整うための支援を行うことです。

そして、最終目標は、彼らの手でコーヒ一生産地として自立し、誇りを持ち、自らの力で貧困からの脱出です。

●11月24日の コットマレーコーヒー ●

豆は赤い実になり始めていた。村人の農家の夫婦が、自分達が生産し収穫したコーヒー豆を見てくれと、手に抱え誇らしげに、恥ずかしそうな表情とが入りまじっていた。

